

生命環境学部及び生命環境学部各学科のアドミッション・ポリシー

教育の理念・目標

生命環境学部は、「生命」と「環境」に関わる諸領域の学術を学際的、総合的に考究することを目的として、人間の生活や産業などの諸活動と自然環境との共生を図るための知識と技術を身につけられるようにします。

具体的には、

- 1 生命分子機能の応用
- 2 生物機能開発と食料生産の向上
- 3 食環境と健康の向上
- 4 自然環境と情報環境の向上
- 5 人間生活と住環境の向上
- 6 森林の保全と利用

に関わるそれぞれの領域で、第一線で活躍できる人材育成を目標としています。

アドミッション・ポリシー

生命環境学部では、生命や環境に関して深い関心を持ち、それらが関係する領域の第一線で活躍する意欲に溢れる次の資質を持つ人を求めています。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等における各種学習内容の幅広い理解
- 2 生命と環境に関する基礎学問である自然科学系科目の論理的理解
- 3 論理的な思考力や柔軟な発想力と自分の考えを的確に述べる基本的なコミュニケーション能力

【入学者選抜の方針】

生命環境学部では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入試共通テストと個別学力検査を組み合わせた一般選抜、学校推薦型選抜を実施します。

各試験における審査の観点や判定方法等は、各学科がそれぞれ具体的に定めています。

〔生命分子化学科〕

生命分子化学科は、生命現象と生命環境を分子レベルで理解し、科学の進歩と社会の科学的課題の解決に貢献することを目的として、少数精鋭の実験を重視した体系的な生命化学の教育研究を行い、広い視野と論理的思考力を有し、専門知識と先端技術を展開して社会に貢献できる次のような人材の育成を目指します。

- 1 「化学」を基盤として生命科学を学び、生命現象の解明、医薬品開発、機能性材料の創成、地球環境の保全といった社会の要請に応える人材
- 2 高い倫理観と使命感に裏付けられた問題発見・提起力とともに、着実な論理の積み重ねによる問題解決能力を身につけた社会を先導する人材

アドミッション・ポリシー

生命分子化学科では、化学をはじめとする理科に強い興味があり、論理的で、自主性と想像力に富んだ人間性を高めたい人を求めます。また、入学後も一層の勉学意欲と向上心を持ち続け、厳しい学力評価に耐えうる心構えを持っていることが望まれます。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科（国語、数学、理科、英語、地理歴史・公民）についての十分な基礎学力
- 2 特に化学、物理、生物、数学に関する優れた能力
- 3 基礎課題に対して自らの表現方法で的確に解答できる基本的な読解力・思考力・表現力
- 4 グループ実験や研究活動を遂行するための論理的思考力・コミュニケーション能力・高い協調性
- 5 積極性とチャレンジ精神

【入学者選抜の方針】

生命分子化学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1については大学入試共通テストおよび調査書により、また、2、3については個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。

●一般選抜（後期日程）

上記1、2については大学入試共通テストおよび調査書により、理科および数学に秀でた入学者を選抜します。

●学校推薦型選抜

上記1～3については総合問題により、上記1～5については、推薦書・調査書・志望理由書・面接により評価し、入学者を選抜します。

〔農学生命科学科〕

農学生命科学科は、「ゲノムから生産・流通まで」の方針のもと、生物機能の開発とその高度利用技術、それらの社会経済的側面について教育・研究を行い、農業とそれに関連する諸産業の発展に広い視野をもって寄与できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

農学生命科学科では、本学科の方針である「ゲノムから生産・流通まで」にふさわしい学生を求めするため、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科についての十分な基礎学力
- 2 生物・生命の諸性質や機能に対する興味ならびに未知の課題を探求する勇気と強い意思
- 3 生物・生命に関する知識を活用して未知の課題に論理的に取り組む能力
- 4 実社会の問題に取り組み、日本や世界の農業と食料の問題、それらに関連する技術、流通経済、諸産業などへの興味に基づき自律的に考え、学ぶ態度
- 5 先端の科学技術を習得し、農学生命科学の最先端の課題にチャレンジすることによって、人類の知と技術の地平を積極的に切り拓く意欲

【入学者選抜の方針】

農学生命科学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

高等学校等までに履修する全ての教科のうち、大学入学共通テストにより、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語における基礎学力を評価する。併せて、英語と理科については個別学力検査を課し、正確な知識に基づき論理的に解答する能力を評価し、入学者を選抜します。

●一般選抜（後期日程）

高等学校等までに履修する全ての教科のうち、大学入学共通テストと調査書により、数学、理科、英語について、とくに高い基礎学力を有する入学者を選抜します。

●学校推薦型選抜

高等学校等までの英語および理科系科目全般についての総合問題により、これらの基礎学力と思考力を評価します。加えて、科学や社会の様々な動向への興味や問題意識、それらを分析しようとする探究心と自分の考えを正確に他人に説明する能力について、推薦書・調査書・志望理由書、面接により入学者を選抜します。

〔食保健学科〕

食保健学科は、「食」を通して生活の質を向上させることを目的として、「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、望ましい食生活のあり方について教育研究を行い、「食」に関する高い見識を持ち、課題解決能力を持った、社会に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

食保健学科では「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、それについての知識を学び、その知識を生かして社会に貢献したい学生を求めます。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科についての十分な基礎学力
- 2 理科（化学と生物を履修していることが望ましい）についての十分な学力
- 3 基本的なコミュニケーション能力
- 4 自分の考えを的確に伝えるための表現力
- 5 食や健康分野に対する興味関心と、この分野を生涯にわたって学ぶ態度
- 6 課題の発見・解決への貢献と知識探究への意欲
- 7 多様な状況下で、相手の立場や多様性を尊重できる協働性

【入学者選抜の方針】

食保健学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～6について、大学入学共通テストと個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。

●学校推薦型選抜

上記1～7について、推薦書、調査書、小論文および面接により評価し、入学者を選抜します。

特に小論文では、課題に対する知識、理解力、英語力、分析力、論理的思考力、表現力等を、面接では、食保健学科の学びの目的意識や意欲、およびコミュニケーション能力を評価します。

【環境・情報科学科】

環境・情報科学科は、自然環境、情報環境の向上を目的として、生物学、化学、物理学、情報学、数学にわたる教育研究を行い、科学技術を生活の向上に生かすことができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

理工系分野で世界に通用する専門家になるためには、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要です。各理系科目を暗記ではなく理解して、自分の言葉でその内容を語る能力があるかを重要視します。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等における各種学習内容の幅広い理解
- 2 思考力・判断力・表現力を兼ね備え、培われてきた学力を基に自分の考えを的確に記述できる能力
- 3 数学と理科についての十分な学力
- 4 柔軟な発想に基づく思考力と豊かな創造性
- 5 社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発への夢を語る能力
- 6 先端科学技術を人々の生活の向上に生かそうという意欲

【入学者選抜の方針】

環境・情報科学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1について、大学入学共通テストにおいては、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語を課す一方で、上記2について、個別学力検査の配点を高めに設定し、数学、理科を課し、記述式問題を重視する。また、上記1～6について、調査書の評価を選抜に反映させる。

●学校推薦型選抜

上記3について、「普通科の生徒については、数学Ⅲと理科12単位以上を修得している。情報科学科の生徒については、数学は数学Ⅲ関連科目を修得し、理科は理科関連科目（本来の理科科目の他に情報関連科目などを含める）を12単位以上修得している。工業高校の生徒については、数学は数学関連科目（本来の数学科目の他に、応用的な数学を主たる内容とした科目も含める）を13単位以上修得している。理科は理科関連科目（本来の理科科目の他に、応用的な理科を主たる内容とした科目も含める）を12単位以上修得している。」を推薦条件に含め、上記1、2、4～6について、推薦書、調査書、テーマ作文、面接の総合判定を行う。

【環境デザイン学科】

環境デザイン学科は、豊かな生活環境の実現を目的として、住居・建築学、インテリア・生活デザインについて教育研究を行うことにより、広い教養と総合的な判断力を持ち、人と環境に優しい生活環境と生活様式の創造ができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

環境デザイン学は、住居・建築学を基盤としつつ、循環型社会、ランドスケープ、インテリア・ブ

ロダクトなどを包摂する幅広い専門領域にわたります。そのため、環境デザイン学科では、人と環境にとって望ましい住居、建築、都市、地域、暮らしのデザインについて、生活者の視点から科学的に追求し、総合化し、提案する意欲ある人を求めています。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科（国語、数学、理科、英語、地理歴史・公民など）についての十分な基礎学力
- 2 緻密な論理的思考力と判断力、社会に対する洞察力
- 3 デザインや造形に対する強い関心と、それを表現し提案することへの熱意
- 4 生活環境がもつさまざまな側面を、技術的・文化的・社会的に把握するとともに、それが生み出されていくプロセスを理解し、実際にすぐれたモノや空間を構築したりデザインしたりするための基礎的要素と意欲

【入学者選抜の方針】

環境デザイン学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1に関する高い基礎学力を、大学入学共通テストおよび個別学力検査により評価するとともに、上記2～4に関する高い能力を調査書により評価し、入学者を選抜します。

●学校推薦型選抜

上記1については小論文・推薦書・調査書で、上記2、3に関する高い能力については志望理由書と面接により評価し、入学者を選抜します。

〔森林科学科〕

森林科学科は、地球環境の保全、森林資源の有効利用を目的として、森林とその生産資源に関する事象に対して総合的な教育研究を行い、環境問題、資源問題への取り組みを通じて地域貢献、ひいては国際貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

森林科学科では、森林に対して興味や探究心を持ち積極的に学ぼうとする人、基礎的な知識や技能を有し、論理的な思考力や判断力を持って主体的に問題を解決できる人、社会の一員として地域貢献や国際社会で活躍する意欲を持っている人、そういった学生を求めています。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科（国語、数学、理科、英語、地理歴史・公民）についての十分な基礎学力
- 2 森林科学の基礎的な学問体系となる数学および理科に関する分析力、理解力
- 3 長文の読解力、論理的思考力、自分の考えを的確に伝えることができる表現力、他人と相互理解できるコミュニケーション能力
- 4 自然や科学に対する興味と探究心、森林に関する諸問題を積極的に学ぼうとする意欲
- 5 自然を慈しみ、自ら問題点を発掘し、物事を論理的に考え、広く社会の状況を把握できる能力
- 6 森林関係分野における産業の発展、地域貢献、さらに国際的視野に立った活躍を目指す意欲

【入学者選抜の方針】

森林科学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程）

高等学校等までに履修する全ての教科のうち、大学入学共通テストにより、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語における基礎学力を評価します。併せて、個別学力検査により、数学、理科に関する学力と論理的思考力、主体性等を評価し、入学者を選抜します。

●一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにおいて、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語を課すことにより基礎的な学力評価を行い、調査書により主体性等を評価し、入学者を選抜します。

●学校推薦型選抜

高等学校等までの基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力および主体性・協働性について、グループディスカッション、テーマ作文、推薦書、調査書、志望理由書、面接により評価し、入学者を選抜します。